

平成29年7月1日に行われた山辺町家庭充実事業「子育て講演会」では、これまで長期に渡り小学校教鞭を執られそして現在は山形大学の講師を務めながら、子育てのアドバイザーとして、様々な分野でご活躍されている佐藤節子氏をお招きしご講演頂きました。子ども達と向き合う毎日、悩んだり、落ち込んだり色々な心の葛藤がありますよね。そんな子育て中の皆さんに、楽しくなるヒント、ポイントを楽しい手遊びや、じゃんけん等のゲームを交えてお話下さり、会場は笑い声でいっぱいになりました。ご都合が悪く、参加できなかった方もいらっしやいましたので、少しばかりですが、お話の内容をお伝えさせていただきます。

～やる気を育てる親子の会話～

山形大学大学院教育実践研究科 佐藤 節子氏

1、はじめに

子どもと親は違う存在

2人組で、カタツムリを作ったり、じゃんけんをしながら触れ合いました。ふれあいの中で、相手と息を合わせようとしても中々難しく…『子どもと自分とは違う存在』思い通りにならないのがあたり前。

親自身も、子どもと共に、成長している、成長していく実感を持つよう！

2、心の土台

- ・隣の人と、お互いのお子さんのいい所を伝え合ってみよう。普段は中々、考えたり伝えたりしていない事に気付く。自己肯定感が高い子どもは自分を好きになり、大切にされる。そして、周囲の人の事も好きになり、大切に出来る。→いっぱい、いい所を褒めよう！
- ・今、乳幼児期に周囲の大人にいっぱい『安心・楽しい・認められる』ことで、これから社会で生きていくための『社会生活の技術』である自己表現力、自己コントロール、状況判断力、思いやり等が育つようになる。そしていずれ、自己の力を発揮できる、豊かな心で人とかかわれる人となる。

3、感情の社会化…気持ちを反動的に聞く

- ・感情を言葉にして解ってくれる大人が傍にいてくれる「痛かったね」「悔しいんだね」「大丈夫だよ」

「自分の事を心底解ってくれる大人が傍にいる」と感じながら育つ子は～周りの人が好き～

- ・大人の目を気にして感情を表現できない子ども…自分の心の中で解消しようとする。

「自分の事がみんな嫌いなんだ。自分なんていない存在」～思春期に切れる、引きこもる～

○周りの大人が、幼児期に子どもの気持ちを汲んで代弁してあげたり言葉を復唱してあげたりしてあげることで、子どもは感情を認識し、思いを表現して伝える方法（社会化）を学んでいく。

◎大切なのは、親子のコミュニケーションと言葉の反動的な聴き方

<例えば>

子：「お母さん、～ちゃんからいやな事を言われた」と子どもが話した。貴方なら、どうする？

① 「そんなひどいことをする子がいるのね！直ぐに先生に電話しなきゃ！」と電話を持つ。

② 「そうかぁ、悲しい気持ちになったのね。どうしてそんな風に言ったのかな」と一緒に考える。
さて、どちらにしますか？

① の場合…子どもは「あっ、そうかお母さんに話せば全てお母さんが解決してくれるんだ」と思う。

② の場合…子どもは「いやな気持ちだったけれどお母さんが解ってくれたから、まっいいか」と相手を許せる。

問題解決の方法・模索→①まずは子どもの気持ちを受け止める。 ②子どもと一緒に考える。

③ 子どもに考えさせてみる⇒自分の決めた事に責任を持てる様になる。

◎アイ・メッセージ(親の気持ちを伝える)

- ・あなたが～する時 (子どもの言動を述べる) **あなたが片づけないと**
- ・私は～ と感じる (親の感じた事を述べる) **私はとても困る。**
- ・なぜって～ (結末を述べる) **なぜって…**

◎**勇気づけの言葉**をいっぱい伝えよう！…貴方がかけられて安心する言葉は何ですか？

子どもをありのままに受け入れる言葉

子どもの貢献・長所に注目し感謝する言葉

努力や進歩を認める言葉

キーワード：**ありがとう うれしい 助かった… 1秒で伝えられるメッセージ**は沢山ある。

～佐藤 節子先生の講演を振り返って～

ご講演の前に手遊びや隣の人と触れ合う等のアイスブレイク。お蔭でリラックスした雰囲気の中でお話をお聞きする事が出来ました。子育ては、大変な事が沢山ありますが自分自身が子どもとのコミュニケーションを楽しみ、子どもと共に考えたり、悩んだりできることの幸せを実感できたなら、親としての幸せ積み重ねていけると思いました。決して平坦ではないこの道ですが一人で悩まず周囲の人ともコミュニケーションを図りながら、真剣に子どもの事を語り合って、一緒に成長していきましょう。100点満点の親なんていない。でも、自分の子どもには100万点の気持ちで向き合い『大丈夫、私はいつもあなたを見ているよ、あなたはあなたでいいんだよ』と言うメッセージを伝えていきたいですね。